

編集後記：6月に入り、本格的な雨のシーズンを迎えたところだが、雨は人間の活動にとって不快に感じるだけでなく、時には災害をもたらしたりもする。この時期、雨上がりには草木の新芽がいつそう鮮やかになり、植物の成長に欠かせない水（雨）の恵みを感じさせられる。

ところで冷静に考えると、雨は飲料水や農業用水など、人間活動にとっても重要なはずであるのだが、つい忘れがちとなっているように思える。気象の分野において、最近の傾向は、気候や環境といった話題が多くなっているようで、雨や風といった基礎的な要素の

調査や研究は、少なくなっているような気がする。もうすでに調べつくされているとの意見もあるかもしれないが、本当にそうであろうか？近年の情報処理能力の向上には、目を見張るものがあり、以前とは比べものにならない。以前のデータ処理環境では、困難に思えた調査や研究も、今では短時間で処理可能となってきている。

雨のシーズンを機会に、気象現象の基本である「雨」についての調査や研究を見直してみるのもおもしろいのではないだろうか。

（寺坂義幸）